



明るく開放的なロビーでは、コロナ禍前はピアノ演奏会など入院患者を対象としたイベントが定期的に開催されていた。プライバシーを考慮した個室(左下)、浴室も備えた特別室(右下)を用意



鏡による切除で完治が見込める早期発見早期での治療につなげている。常に研修の場を提供し、毎年、全国から多くの医師が訪れ修練を積み重ねているのも同院の特色の一つ。高い技術と専門性、豊富な経験を基に多くの大腸肛門病医・肛門外科医の育成にも尽力している。

医療機能を強化した新外来施設とホスピタリティ溢れる療養環境

2004年に外来・日帰り手術機能を札幌いしやまクリニックに入院手術機能を札幌いしやま病院に分割。23年10月、これまで以上に良質で、やさしい肛門外科医療の実現を目指し、札幌いしやまクリニックが新築移転オープンした。電子カルテシステムや診療案内システムを新規導入し、より効率的な診療体制を

整え、患者サービスの向上に力を入れたほか、患者の羞恥心を少しでも軽減できるよう診療室の照明の明るさを調整するなど、「患者中心」の工夫が随所にみられる。札幌いしやま病院と併せて、患者のプライバシーが守られ、安心して治療を受けられる施設となっている。

切除しない痔核手術「ACLJ法」 肛門を守り生活の質を保つて

痔のうち最も多い痔核。排便時に強きいきむなど、肛門に負担がかかることが度重なると、肛門の出口から数センチ入ったところにある「肛門クッショング」と呼ばれる柔らかな盛り上がり(血管の集まり)が徐々に腫れ、本来あるべき位置からずれ落ちた状態になる。これが痔核だ。

また、札幌いしやま病院の個室中の入院病棟は、病室や患者の憩いの場となる共有エリアも、安心感や安らぎを感じながらストレスなく療養できる環境が整っている。インテリアや照明など細部までこだわりをもつた空間・環境づくりが実践されており、ホスピタリティの精神を重視したケアが提供されている。

「普段の生活では肛門のありがたみを実感する機会はほとんどない」と思いますが、便を保持したり、便秘とガスを区別したり、肛門は精密機械顔負けの高度で複雑な機能を備えた大事な臓器です。だからこそ、肛門の治療においては、肛門本来の機能を損なわないようになります。排便は毎日の生活で当たり前に行われる行為ですが、そこに不便を感じると生活の質は著しく低下します。排便時に違和感や異変があれば、迷わず大腸肛門病医を受診してほしいと思います」(石山理事長)。



院長 西尾 昭彦

日本外科学会認定外科専門医
医学博士

INFORMATION

札幌いしやま病院(入院診療)

所在地 札幌市中央区南15条西10丁目4番1号 ☎011-561-2241

札幌いしやまクリニック(外来診療)

所在地 札幌市中央区南15条西10丁目4番10号 ☎011-551-2241

診療科目 肛門外科・内視鏡外科(大腸・胃)

診療時間 月・火・水・金 9:00~11:30

13:30~16:00 8:00~11:00

木・土 ※火曜の午後は女性専用受付

休診日 有(80台)

アクセス じょうてつバス「南14条西11丁目札幌いしやま病院前」下車徒歩約1分

H P <https://www.ishiyama.or.jp>



札幌いしやま病院／札幌いしやまクリニック



2023年10月、より高い専門性と総合力を備えた痔・直腸肛門疾患の専門病院を目指し、札幌いしやまクリニックが新築移転オープンした(旧クリニックの道路・国道230号を挟んで向かい側、札幌いしやま病院の南隣)。

痔・直腸肛門疾患に対し、専門性に基づく質の高い医療を提供

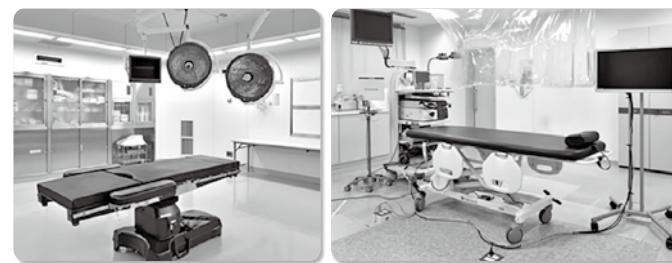
痔・直腸肛門疾患に豊富な経験 大腸がん早期発見・治療にも力

1977年に直腸肛門疾患の専門病院として開院し、以来、治療技術の向上に努め、痛みが少なく肛門機能を損なわない治療に注力してきた。2024年12月現在、日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医7人が1日150~200人の外来患者、年間約6万人の肛門疾患治療を行なっている。23年4月~24年3月の手術実績は年間約5000件に及び、このうち日帰り手術が約1540件、入院手術が約3500件を占める。

痔核(いぼ痔)の治療では、痔核を切り取らずに本来の状態に戻す肛門の美容形成的手術(ACLJ法)、肛門クッショング吊り上げ術を開発。この独自技術をより低侵襲な術式へと発展・進化させながら実施している。裂肛(切れ痔)に対し、肛門周囲の痛みをとる麻酔をした後、肛門

肛門から出血した場合、大腸からの出血も疑われる。ただの痔だと思っていたら、大腸がんが見つかったというケースは決して珍しくないという。同院では、大腸内視鏡検査による大腸がんの早期発見にも力を入れ、年間約1800人に大腸内視鏡検査を実施し、約100例の大腸がんを発見(23年4月~24年3月)。内視

の括約筋のマッサージして引き延ばす治療や、痔瘻に対し、括約筋の損傷を最小限に抑えた手術「肛門機能温存法」も同院が開発し、学会や論文でも発表され、全国で評価されている治療法だ。また、特に高度な知識と治療技術を要する複雑痔瘻ができる排便困難をきたす直腸瘤の手術、出産時の外傷などで生じる直腸膿瘻の修復術、年々増加している炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎・クロhn病)の肛門管理など、難治性の直腸肛門疾患や専門性の高い治療にも対応し、道内はもとより全国から患者が来院している。



最新の医療機器を揃えた手術室(左)と内視鏡室(右)。開院以来、治療技術の向上に努め、痛みが少なく肛門の機能を損なわない治療の開発・施行に力を注いでいる



理事長 石山 元太郎

日本外科学会認定医・専門医。
日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病指導医・専門医

肛門科・外科の専門医7人による、年間約5000件の手術実績

※1

※1 日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医及び日本外科学会認定外科専門医
※2 日帰り手術約1540件、入院手術約3500件(2023年4月~24年3月)